

解剖訓蒙筋論 六



Y994-J10255
1200901349497

509
筋論

Kodak Gray Scale

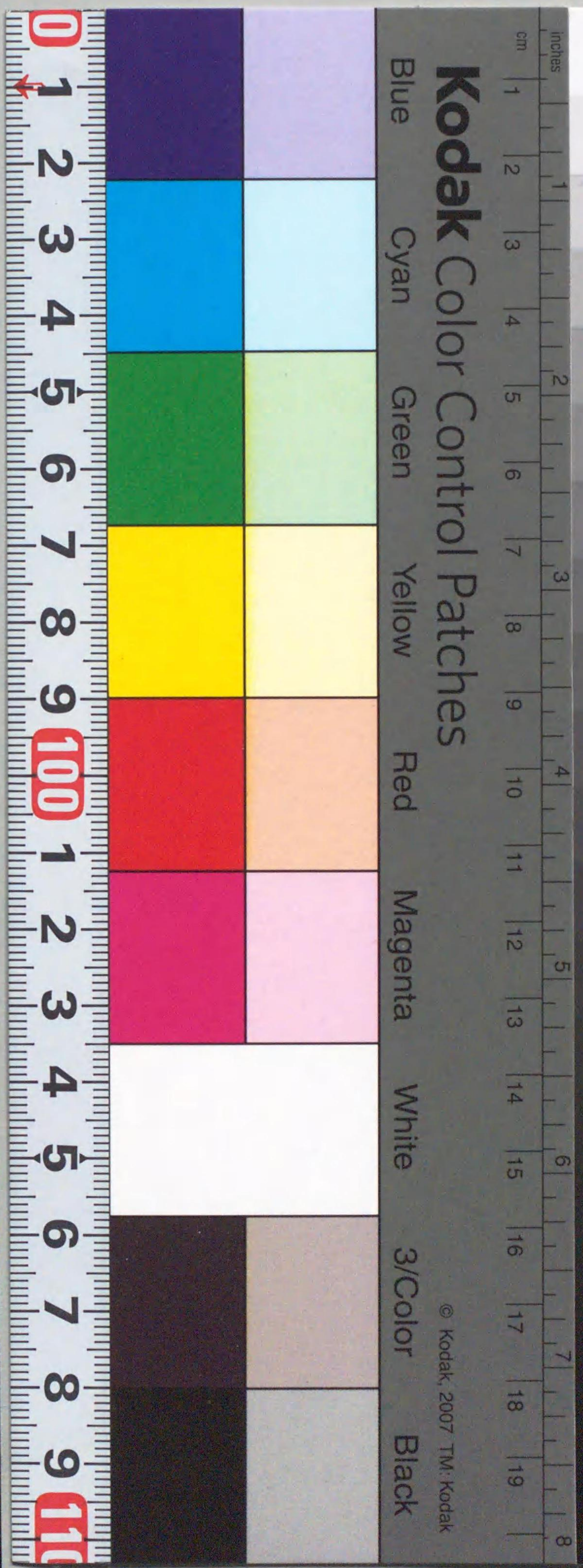
- A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

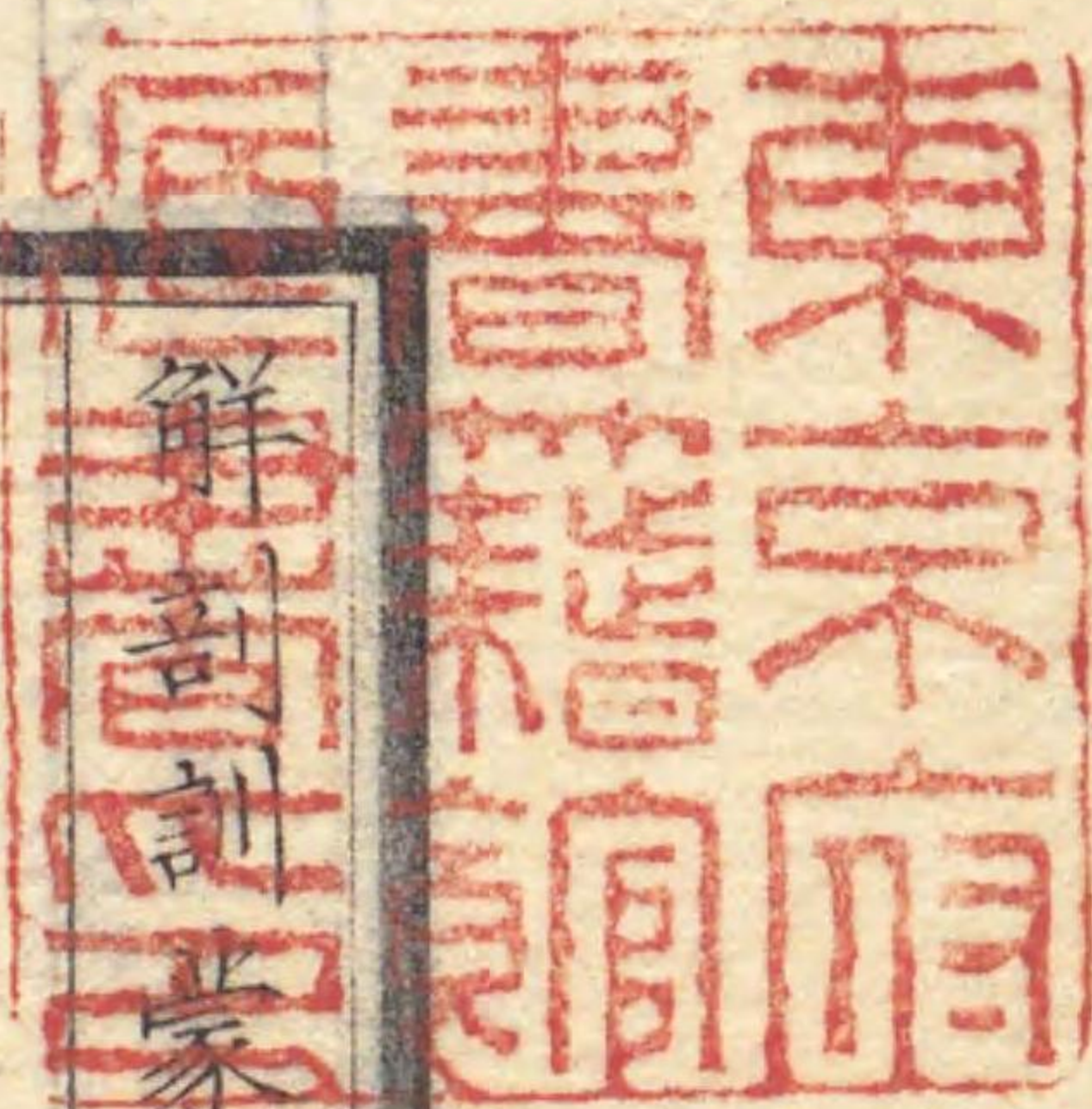
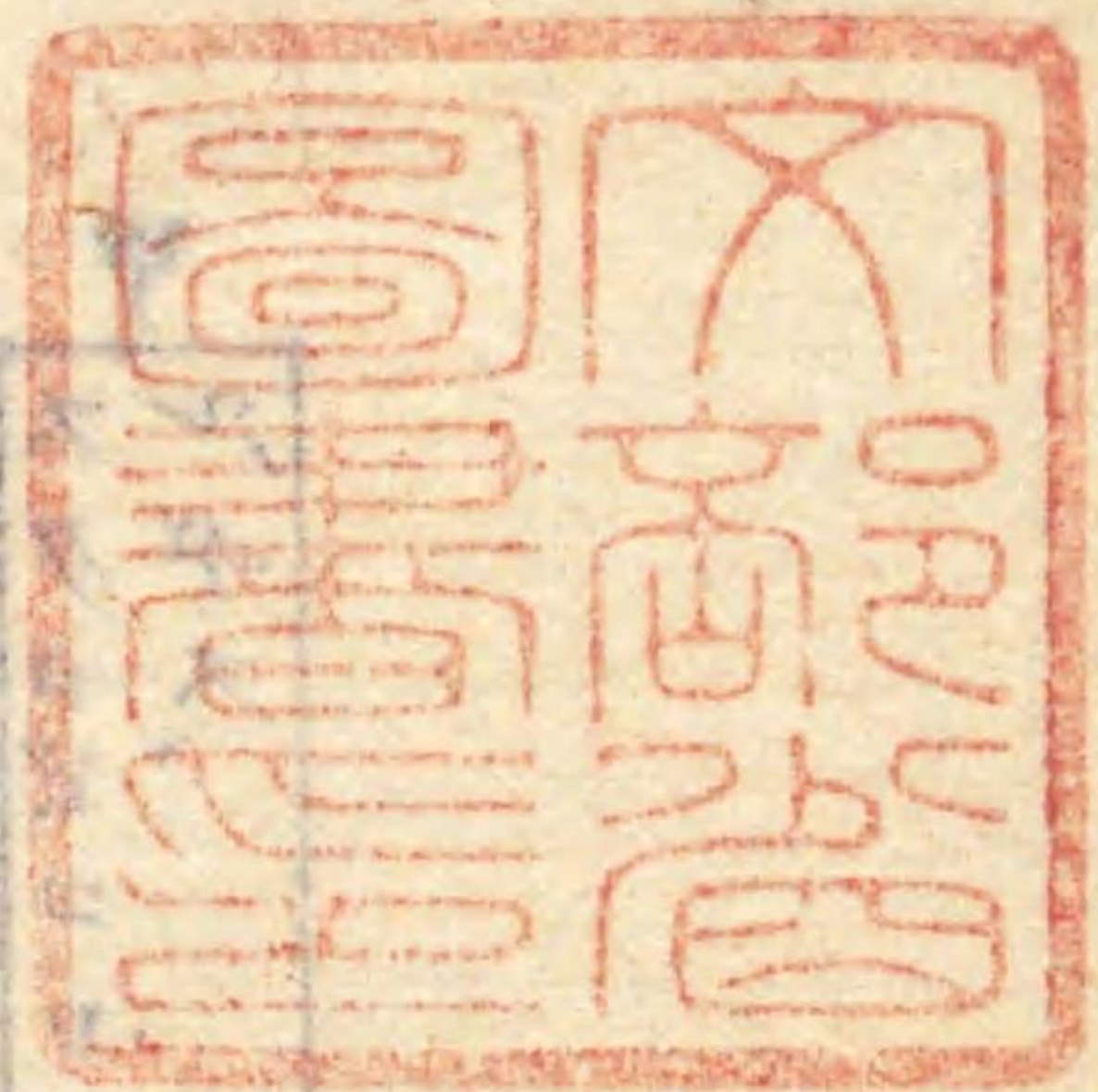


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

- Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black





Y994

J10255

甲
ガストル

解剖學卷之六

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著
日本 文部省出仕副鳴之純譯

筋論
腹

腹^甲 アブドハ、軀幹ノ一部、即チ胸ノ下端ト、尻骨盤
ノ上端トノ間タニ於ケル、大ナル深窩ニシテ、外
面ヲ密閉スルニ、柔軟且、延長スヘキ、一壁ヲ以
テス、之ヲ腹壁^ルト云フ、此壁ハ、皮膚、莢膜、六對
筋、横莢膜、及ヒ腹膜ヨリ成リ、前部ハ、最モ長クシ

解剖學

卷之六

一



I 種

W



1200901349497

テ、後部即チ腰部ニ到ルニ隨ヒ、漸次ニ短ク成リ、
遂ニ脊椎柱ノ兩側ニ達ス此壁、吾人佇立スルキハ、
凸隆シ、仰卧スルキハ、凹陷ス、且ツ吸氣ニハ、其凸
隆増盛シ、呼氣ニハ、其凹陷増盛ス、而ノ其凸凹ノ
度ハ、肥瘠ニ由テ同シカラス、殊ニ瘦瘠家ニ於テ
ハ、凹度甚クシテ、脊柱ヲ按知シ得ヘシ、

努力家ニ於テハ、腹筋ノ周圍、皮上ヨリ透見スヘ
シ、肥滿家、殊ニ健康ナル女子ニ於テハ、皮下ノ脂
肪ニ由テ、其周圍透見セス胸骨ノ下部ニ於テ、凹
陷アリ、
胃窩 スピト、オク、モ、ト云フ、其近傍、脂肪増盛

甲
スクロビコロスコ
ルダス、

スルキハ、益、著明ナリ、

腹壁ノ前面、其殆ト中央ニ於テ、臍帶ノ痕痕アリ、

臍 フチ ト云フ、皮膚之ニ固着スルヲ以テ、其周圍

脂肪集積スルキハ、益、深入セリ、

腹壁ノ下部ハ、兩側腸骨嵴ノ隆起ニ界シ、内方ハ、

鼠蹊、及ヒ耻骨ノ隆起ニ界ス、鼠蹊ハ、腸骨嵴ヨリ

下行シテ、耻骨ニ達シ、乃チ腹部ト、股ノ前部ヲ分

界スル皺襞ナリ、

腹部ノ皮膚ハ、他部ニ比スレハ、薄シ故ニ適宜ニ

擴張スヘシ、殊ニ瘦瘠家ニ於テ、擴張スルキハ、皺

甲
オンビリク

襞ヲ生シ易シトス、肥満家ニ於テハ然ラス、是故ニ或ハ脂肪ノ充積、或ハ妊娠、或ハ水腫等ニ由テ、腹壁屢、非常ニ膨脹スルヲ看テ、皮膚ノ性ヲ斯ク大ニ擴張スルモノト誤認スル勿レ、是等ノ景況ニ於テハ、皮膚遂ニ破裂シ、膨脹既ニ治スルモ、其瘢痕ヲ残留ス、

腹表筋莖

腹表筋莖オス、左、ア、プ、シ、ド、ア、ル、メ、シ、ア、ハ、浅深ノ兩層ヨリ成リ、下部ニ於テ、尤モ發育シ、其上方及ヒ後方ハ、胸及ヒ背ノ表筋莖ニ連合ス、而シテ其兩層ハ、

甲
スシテ、
アリス、
ア、
ド、
メ、
ン、

共ニ着合セル者ニシテ、腹ノ中線、腸骨嶺、ポ、ルト、韌帶ニ沿テ固着シ、乃チ股表筋莖、精系筋莖、及ヒ陰莖筋莖ニ連合ス、

兩層、其分界スヘキ所ニ於テハ、淺層ハ、緩ナル結締織ヨリ成リテ、多少脂肪ヲ含有ス、此脂肪ハ、耻骨ニ到ルニ随ヒ、漸次ニ増盛シ、臍ニ於テハ、乃チ之レ無キナリ、是レ所謂肥満家ニ於テハ、其臍益深キ所以ナリ、深層ハ、稍ヤ薄ク膜状ニシテ、脂肪ヲ有セス、而シテ此兩層ノ間、夕、皮下ノ脉管ヲ含有セリ、殊ニ表上腹動靜脈、斜メニ、荒、蹊ヨリ上行ス

ルヲ以テ、著明ナリトス、

腹部諸筋

腹ノ前壁、及ヒ側壁ハ、六對ノ筋ヨリ造成ス、其三對ハ、廣筋ニシテ、他ハ長筋ナリ、之ヲ以下ニ辨説ス、

外科腹筋

大ナル者ニシテ、肉部及ヒ強韌ナル腱膜部ヨリ成ル其肉部ハ、腹壁ノ側方ヲ填實シ、膜部ハ、前方ヲ被包ス、

此筋ハ、稜角ナル指状ヲ以テ、大鋸筋、及ヒ濶背筋

甲
ムスクルス、オプラ
イクス、ア、プロドミナ
リス、エキステルニ
ス、

ニ於ケル、起點ノ指状ニ連接シ、乃チ肋骨下方ハ片ノ外面ヨリ起リ、其東内下方ニ斜行ス、其尤モ下部ナル者ハ、腸骨嶺ニ附着シ、其他ハ、腱膜ト為リ、胸骨ヨリ耻骨マテ、腹ノ中線ニ沿テ、他ノ同名筋ノ腱膜ニ結合ス、

腱膜ノ上方四分ノ三ハ、中線ノ側方ニ於テ、廣キ带状ヲ呈シ、下方四分ノ一ハ、外方ニ擴張シテ、腸骨ノ前上棘状突起テ達ス、此腱膜ノ纖維ハ、肉束ノ方向ニ随ヒ、多ク交叉スル者アリテ、他ノ同名筋ノ腱膜ヨリ来ルカ如シ、而シテ其處ニ由テハ、分

甲
アンニリス、ア、ブ、ド
ミニス、

岐シテ、方形ノ間隙ヲ留置シ、血管ヲ透通シ、以テ
 表筋莢及ヒ皮膚ニ達セシム、
 腱膜ノ上部ハ、大胸筋ノ起點、及ヒ胸骨ノ下部ニ
 固着シ、下部ハ、耻骨ニ達スルニ臨ミ、其纖維分岐
 シ、三角形ノ間隙ヲ留置ス、此間隙ヲ外腹輪甲スエキ
 ミナル、リア、プ、ク、ト云々、乃チ男子ニ在テ、精系ヲ通
 シ、女子ニ在テ、子宮ノ圓韌帶ヲ通ス、此輪ハ、斜メ
 ニ下内方ニ向キ、其底ハ、耻骨ノ体ニ由テ成リ、其
 兩側乙ノ間隙ハ、腱纖維ノ分岐ニ由テ成リ、其内
 柱乙上柱乙ノ間隙ハ、耻骨縫合ノ前部ニ固着シテ、

乙
ビルラルス、



他ノ同名筋ノ着點ニ結合ス、其外柱乙下柱乙ノ間隙ハ、
 ハ、腱膜ノ下部ニ在ル、稍ヤ肥厚ナル纖維ニ由
 テ成リ、腸骨ノ前上棘状突起ト、耻骨棘ノ間ニ達
 ス、是レ所謂ポトホルト韌帶トス、弓乙ノ間隙ハ、
 シテ、鼠蹊ノ脱腸、或ハ股ノ脱腸ニ當テ、尤モ要用
 ナル者トス、

外腹輪ノ上部ニ於テ、ポトホルト韌帶ヨリ、横ニ
 腹ノ中線ニ達スル纖維アリ、是レ腹輪兩柱ノ大
 ニ離隔スルヲ防ク者ナルヘシ、故ニ腹輪ノ縁ヨ
 リ、薄層ノ結締織延長シテ、精系或ハ圓韌帶ニ達

セリ、

ポ一フルト「靱帯ハ其經歷中ニ於テ下方且ツ稍
ヤ内方ニ彎入シ、肢筋莖ニ連合ス其着點ニ於テ、
同組織ノ隆起アリ、耻線ニ沿ヒ、纜カニ延長シ、其
終リ半月様縁ト為ル、是レ所謂「デンビルクト靱
帶」ス、デンビルクトニシテ、亦タ股ノ脱腸ニ當テ、尤
モ要用ナル者トス、

甲 内科腹筋

ラ井クテ、ムスナル、オプハ、前筋ノ底下ニ位

シ、亦タ腹ノ側方ニ在テハ、肉状ニシテ、前方ニ在
テハ、腱膜状ナリ、而シテ「ポ一フルト靱帯」ノ外部、腸

ムスクルス、オフラ
井コース、ア、プロミ
ナリス、井ンテ、ルミ
ス、

骨脊、及ヒ腰筋莖ヨリ起リ、其肉束、前方ニ放線セ

リ、其後部ノ者ハ、斜メニ上行シテ、肋軟骨下方四

片ノ縁ニ固着シ、以テ内肋間筋ニ連合ス、其他部

ノ者ハ、終尾腱膜ニシテ、胸骨ノ末端、及ヒ肋軟骨

ノ第七八片ヨリ、耻骨ニ達ス其全徑ノ上方四分

ノ三ハ、分歧シテ、乃チ兩板ト為リ、一ハ腹直筋ノ

前ニ進ミテ、外斜腹筋ノ腱膜ニ癒着ス、一ハ腹直

筋ノ後ニ進ミテ、横腹筋ノ腱膜ニ癒着ス、下方四

分ノ一ハ、分歧セス、唯タ直筋ノ前ニ進ムノニ此

筋下部ノ纖維ハ、下前方ニ弓回シ、精系或ハ子宮

甲
ムスグルス、ダラン
ス、スル、スア、プロドミ
ナリス、

ノ圓韌帶ヲ越エ、横腹筋ノ下部ノ纖維ニ結合シ、
乃チ結合腱ト、コ、ン、シ、ヨ、ド、ンヲ造成ス。此腱ハ、外腹輪
中、耻骨体、及ヒ其線ニ附着ス、故ニ外腹輪孔ヲ通
シ、腹臓ノ一部ノ脱出スルヲ防ク者トス、
横腹筋甲 ス、ムラン、ス、ク、ル、ハ、前筋ノ底下ニ位シ、亦タ
肉状、及ヒ腱膜状ヲ成セリ。而シテ、ポ、ル、ト、韌帶
ノ外部、腸骨嵴、腰筋莖、及ヒ横隔ノ起點ニ於テ交
又シ、肋軟骨下方六片ノ内面ヨリ起リ、即チ名ノ
如ク、其束、前方ニ横行シテ、腱膜ニ終ル。此膜ノ上
方四分ノ三ハ、内斜腹筋ノ腱膜ノ后板ニ着合シ

甲
ムシ、ア、タ、ラン、ス、
ル、サ、リス、ス、ア、プロドミ
ナリス、

乙
ムスグルス、レ、ク、
ス、ア、プロドミ、ナリス、

テ、共ニ腹ノ中線ニ達シ、下方四分ノ一ハ、腹直筋
ノ前ニ進ミ、他ノ廣筋ノ腱膜ニ結合シ、亦タ共ニ
腹ノ中線ニ達ス、
此筋、下部ノ纖維ハ、内斜腹筋ノ纖維ノ如ク、前下
方ニ弓回シ、遂ニ結合シ、結合腱ト為ル、
此筋ノ内面ハ、薄キ纖維膜ヲ以テ被包セリ、此膜
ヲ腹横筋莖甲 ル、タ、ス、ラ、ン、ス、
腹膜ニ固着セシムル者ナリ、
腹直筋乙 ム、ス、ト、ク、ラ、井、ト、ハ、廣キ肉帶ニシテ、腹中線ノ
側方ニ位シ、扁平ナル腱ヲ以テ、耻骨ノ縫合、及ヒ

其体部ヨリ起リ、其幅、逐次ニ擴張シ、三「インチ」或ハ四「インチ」ニ至リ、上行シテ、肋軟骨ノ第五六七片ニ附着シ、其經歷中ニ於テ、三個或ハ四個ノ腱状截痕ヲ呈ス。此截痕ハ、筋ノ幅ト積トヲ貫通シ、而ノ被覆セル腱膜ニ固着ス、是蓋シ、匐行蟲ノ腹部肋骨ヲ顯ハス者ナラン。

此筋ハ、諸廣筋ノ腱膜ヲ以テ造成セル、莖中ニ蔵居セリ、然レ、其裡面ニ於テ、其下方四分ノ一ハ、件ノ莖、欠亡シテ、直チニ腹横筋莖ニ抵觸ス。莖ノ欠亡部ハ、半月様薄縁ヲ以テ境界シ、耻骨ニ達セル

甲 カヒムプレヘリトニール、

乙 ムスクルスビラミダリス、ア、プロドミナリス、

横筋莖ニ連合ス、蓋シ此部ハ、其莖ノ欠亡セルヲ

以テ、^甲腹膜前窩 _{フルレカヒリトニト云フ、是レ膀胱ノ}

膨脹ニ適スルナリ、

^乙三稜腹筋 _{ムビラミダリス}ハ、前筋ノ下端ノ上面ト、諸

廣筋ノ腱膜ノ底面トノ間ニ位シ、耻骨ノ縫合、及

ヒ其体部ヨリ起リ、上行シテ、臍下即チ小腹ノ三

分ノ一ニ達シ、腹ノ中線ニ附着ス。此筋、或ハ片側

ノミナルニアリ、又屢、全ク欠亡スルニアリ、

腹ノ中線ニ於テ、三對廣筋ノ腱膜ハ、其一側ノ纖

維ト、他側ノ纖維ト交錯シ、互ニ相結合シ、白色ノ

甲
リ子アセントナ
ス

線ヲ成ス而シテ此線ノ兩側ニ在ル、腱膜ヲ透見ス
 ルニ、直筋ノ暗色ヲ呈スル所ニ方テ、此線ノ白色
 愈、判然タリ、故ニ「白腹線」アリ子ア、ト云フ此線ハ、上
 部廣ク、下部狹ク、以テ兩直筋ヲ分界ス、其殆ト中
 央ニ臍アリ、乃チ纖維狀ノ癍痕ヲ呈セリ、
 諸廣筋ノ腱膜ハ、大抵、直筋ノ外縁ニ方テ、其處ヨ
 リ起リ、其始ハ、兩側共ニ肉腹ニ接シ、亦タ白線狀
 ヲ呈ス「此線、耻骨ニ近クニ隨ヒ、内方ニ弓回セリ、
 故ニ半月樣線」ハ、セ、ミ、ル、ト、名、ク又此線ヨリ、中
 線ニ達セル、直筋ノ諸腱狀截痕アリ、其方向ニ隨

乙
リ子アセミルナ
リス

甲
ムスクルス、多オド
レ、左ス、ロンバル
ム、

テ、横線ト云フ、莢外ヨリ透見スヘシ、其第一ハ、殆
 ト胸骨ノ下端ニ對シ、第二ハ、胸骨ノ下端ト臍ト
 ノ半途ニ在リ、第三ハ、殆ト臍部ニ位ス、蓋シ屢、第
 四ナル者アリ、是レ不全叢ニシテ、臍ト耻骨ノ間
 タニ位ス「此諸横線ハ、直筋ノ前ニ於テ、直チニ其
 腱膜ニ固着ス、努力家ニ於テハ、中線及ヒ半月樣
 線ニモ固着スルヲ以テ、皮膚ニテ被覆スレ、其
 中間ノ肉腹、井然ト辨識シ得ヘシ、
 四角腰筋」多オド、ム、レ、ス、ト、ハ、腰椎ノ側方ニ位シ
 テ、腰筋莢中ニ藏居シ、腱狀ニシテ、腸骨脊中央ノ

後部ヨリ起リ、上行シテ、季肋骨ト、腰椎末片ノ他、其諸片ノ横突起トニ附着ス、腹部諸筋ハ、其腔内ノ諸臓ヲ維持シ、且ソ壓搾、且ツ舉上シ、而ソ肋骨ヲ拏下スルヲ以テ、其作用、横隔ニ及セリ、故ニ此諸筋ハ、呼氣ニ於テ、最要ナル者ニシテ、且ツ直腸ノ洩尿、膀胱ノ漏尿、胎兒ノ出生、及ヒ嘔吐等ニ於テ、亦タ最要ナリトス、

腰筋莖

腰筋莖ハロシムバルハ、兩纖維層ニシテ、四角腰筋ヲ被包シ、内斜腹筋、横腹筋、及ヒ潤背筋ノ起點ヲ造

甲
フシ又ロムボリム

甲
リガメン左ムアル
キエト左ム、エキス
テルニ

成ス其前層ハ、腰椎ノ横突起根ノ前面、腸骨脊、及ヒ季肋骨ニ固着シ、而ソ季肋骨ニ着スルニ方テ、其縁厚成シテ外弓状韌帶キエトス、テリガナルアルト為レリ、後層ハ、前層ニ比スレハ、稍ヤ厚ク、且ツ多ク、腱膜状ニシテ、腰椎横突起ノ末端、腸骨脊、及ヒ季肋骨ニ固着ス、此層ハ、四角腰筋ト、背伸筋トヲ分界シ、四角腰筋ノ外縁ニ於テ、前層ニ結合シテ、亦タ内斜腹筋、横腹筋、及ヒ潤背筋ノ起點ヲ造成ス、

腹横筋莖

甲
ルシ
アタ
ラン
ス
ル
サ
リス

腹横筋 莖 オタラシク、アプロドリス、ハ、薄キ纖維膜
 ニシテ、横腹筋ノ内面ヲ覆ヒ、以テ之ヲ腹膜ニ固
 着セシメ、而シテ其麓蹊部ニ在テハ、最モ强健ニシ
 テ、脱腸ヲ防クニ、甚タ緊要ナリトス。此筋莖、直腹
 筋ノ莖、欠亡セル部ニ於テハ、直チニ其筋ヲ覆ヒ、
 乃チ其莖ノ半月様周縁ニ固着シ、又チ直腹筋ノ
 腱、及ヒ内斜腹、横腹、二筋ノ結合腱ノ后面、即チ耻
 骨ノ体ト、其線ニ固着シ、其他、「ポールト」 靱帯、及
 ヒ腸骨嵴ニ固着シテ、腸骨筋莖ニ連合ス。上部ニ
 在テハ、稍ヤ薄クシテ、腹膜ノ纖維状着點ヲ以テ、

甲
カナ
リス、
井
ン
ゴ
井
ナ
リス

横隔ニ連合ス、腰部ニ在テハ、更ニ薄クシテ、其造
 構粗疎ナリ、
 此筋莖、腸骨嵴ヨリ、耻骨縫合部ニ達スル中間、即
 チ^{「ポールト」} 靱帯ノ直上方ニ於テ、下内方ニ延
 長セル部アリテ、精系ノ筋莖ト成ル。而シテ此部ノ
 始端ヲ、内腹輪ト云フ、即チ麓蹊管ノ起端タリ、
 麓蹊管

麓蹊管 井ノカナル、井ナハ、腹壁ノ下部ニ在テ、其内ニ
 精系、或ハ子宮圓靱帯ヲ通過セシム。而シテ女子ニ
 在テハ、此管稍ヤ狹隘ナリ、是レ圓靱帯ハ、男子ノ

精系ニ比スレハ、稍ヤ小キヲ以テナリ、

此管ハ、其大サ殆ト一「イン」チ半ニシテ、上端ヲ内^甲

腹輪^ド井^ンチナル、リナル、アプト云ヒ、下端ヲ外^乙腹輪^{キエ}

ドミナルナル、リナル、アプト云フ、而ノ前面ハ、外斜腹筋ノ

腱膜、後面ハ、腹横筋莖、及ヒ結合腱、上部ハ、内斜腹

筋、横腹筋ノ弓状縁、下部ハ、「ポ」フルト「韌」帯ヲ以

テ、其界ヲ成ス、

此管ノ中央ノ后部ニ於テ、上腹壁脈横行ス此脈

ハ、横筋莖中ニ蔵居シ、外腸骨脈ヨリ、上内方ニ進

ミテ、臍部ニ達セリ、

甲
アヘル、五ール、井ン
テルナ、
乙
アヘル、五ール、エキ
ス、テルナ、

甲
左リカ、エビガスト
リク、

乙
ヂアフラグム、

腹壁ノ内面ノ鼠蹊部ニ於テ、上腹壁脈ノ方向ニ

随ヒ、腹膜ノ皺襞ヲ呈ス、之ヲ上腹皺襞^トエビガスト

ト云フ、以テ鼠蹊部ヲ兩淺窩ニ分界ス此窩ヲ

内^甲鼠蹊窩^ン井^ンチナルナル、ホッサ、井^ンチナルナル、

ホッサ、ト云ヒ、其内窩ノ深部ハ、外腹輪ノ部位ニ

當リテ、直鼠蹊脱腸ノ發端ト為リ、外窩ノ深部ハ、

内腹輪ノ部位ニ當テ、斜鼠蹊脱腸ノ發端ト為ル

横膈

横膈^ラヂアフラグム、ハ、胸腔ト腹腔トヲ、分界セル大筋ナ

リ、下面^胸ハ深ク凹陷シ、腹膜ニテ被覆シ、上面

ハ凸出シ、兩胸膜、及ヒ心嚢ニテ被覆シ、其中央ハ、高ク肋軟骨ノ第五片ニ達シ、而シテ右側ハ、左側ヨリモ高居ス、是レ肝臟ヲ受ルニ適スレハナリ、横膈ハ、胸腔ノ下端ニ在テ、胸骨ノ下端、各側ノ肋骨下方第六片、各側ノ弓状靱帶、及ヒ腰椎上方四片ノ体ヨリ起ルヲ以テ、其起點、輪状ヲ成シ、其肉束上行シテ、中央ノ腱ニ輻輳シ、而シテ肋骨部ノ起點ハ、横腹筋ノ鋸齒状突起ノ間ニ在テ、亦タ鋸齒状ヲ成セリ、

甲
リガメンタマルキ
エートト、

弓状靱帶 ア
リガメン
キエ
トト ハ薄ク耳ツ狭キ纖維ニ

シテ、脊椎柱ノ兩側ニ位シ、各二個ナリ、而シテ之ヲ内弓、外弓ニ分ツ、其内弓ハ、腰椎初片ノ体ヨリ、大兔筋ノ上端ヲ越エテ、其横突起ニ達シ、外弓ハ、即チ横莖膜前層ノ上縁ヲ成ス者ニシテ、腰椎初片ノ横突起ヨリ、季肋骨ノ端ニ達ス、

横膈ニ、横膈脚ト云ヘル、左右ノ二脚アリ、共ニ腱状ニシテ、右脚ハ、腰椎上方四片ノ体、及ヒ其椎間ノ纖維軟骨ヨリ起リ、左脚ハ、腰椎上方ノ三片ヨリ起ル、而シテ右脚ハ、左脚ヨリモ大ナリ、横膈ノ中央腱 甲 テセントラハ、廣キ腱膜ニシテ、輻

甲
セントラム、テンチ
三ム、

甲
ヒラキスアオルチ
モス

轉錯雜セル、纖維帶ヨリ成リ、全ク肉部ヲ以テ圍
繞セリ、常ニ之ヲ心臟ノ底面ヲ後方ニ向ケル者
ニ比スレモ、三葉形ト云フヲ佳トス、即チ一葉ハ、
中位ニ在テ、前方ニ向キ、他ノ兩葉ハ、側方ニ在テ、
後方ニ向ケリ、
横膈中ニ三孔アリ、是レ大動脈、食道、及ヒ下行大
静脈ヲ通過スル者ナリ、以下之ヲ辨説ス、
大動脈孔^甲 オアオルチ^ルチ^クハ、腰椎初片ノ前方、即チ横
膈脚ノ中間ニ在リ、爰ニ於テ、横膈脚ハ、大動脈ノ
后方ニ在テ、左右互ニ接着シ、而後チ分岐シテ、其

甲
ホラメン、エソス
ウス

前方ニ廻リテ、再ヒ結合シ、乃チ小弓ヲ成シ、以テ
大動脈ヲ、腱纖維中ニ包蔵シ、横膈肉部ノ収縮機
ニ關與セサラシム、又々大動脈ノ后方ニ於テ、胸
管モ亦々此孔ヲ通過ス、
食道孔^甲 ル^エソ^スチ^エス^ハ、卵圓形ニシテ、前孔ノ上
方、稍ヤ左方、即チ横膈ノ肉組織中ニ在テ、横膈脚
ノ上行スルヤ、其肉束、大動脈ノ前方ニ於テ、互ニ
交錯シ、而後チ進テ、中央腱膜ニ達シ、其中間、食道
孔ヲ留置ス、故ニ此孔縁ハ、肉束ニシテ、其収縮ハ、
食道ノ収閉筋ノ作用ヲ扶助スルナリ、

甲 トラメン、ヘノシム

乙 トラメン、多オドラ
モス

下行大静脈孔^甲ハ、中央腱内ノ稍ヤ右方ニ位シ、即チ腱纖維ノ交錯セル間タニ穿開セリ其形チ、殺隅ノ四角ナリ、故ニ又タ^乙四角孔ト多オドラレシト云フ以上三孔ノ他ニ、横膈脚ヲ穿貫シテ、交感神經及ヒ奇静脈ヲ通過ス、横膈ハ、呼吸筋ノ最要ナル者ナリ、収縮スルキハ、下行シテ、胸腔ヲ濶大ニシ、以テ吸氣機ヲ促ス、蓋シ横膈ハ、諸腹筋ノ排敵ナリ、故ニ横膈、腹筋、共ニ咳嗽、頓笑、噴嚏、欠伸、溜息、號泣、吸息、呃逆、謳歌、嘔吐、其他、排泄物ノ洩出、及ヒ胎兒ノ出生ニ於テ、大ニ

緊要ナリトス

上肢

上肢^トオ、^レプル、^ニチ、^キス、^ハ、其始メ^{肩胛}ダスル、^コウノ隆起

ニシテ、^底下ヲ^腋下^ルア、^キシト云フ、是レ厚縁ヲ以

テ^前后ヲ分界ス、此縁ヲ^腋下層^リ、^ホルシト、^ラト云

フ^上臂^ハ、^一ハ、圓柱形ニシテ、^肱關節^ニ終リ、

此關節、^兩側ノ分界ハ、^兩髁ノ隆起ヲ以テシ、^后方

ノ分界ハ、^肱突起ヲ以テス、^下臂^ハ、^一ハ、^棹状ヲ

呈シ、^一端ハ、^他端ヨリモ、^稍ヤ細小ニシテ、^内方ヨ

リ^外方ニ^壓搾シ、^其隆起セル^内方ノ^上部ハ、^伸筋

丙 アンチフラチウム

乙 フラチウム

甲 アスセルス

及ト廻前筋ニテ成リ、外方ノ上部ハ、伸筋、及ヒ廻
 後筋ニテ成ル^ル、手背^{デ、バツキ、ド、オ、フ、ハ、廣ク且ツ凸起}
 シテ、腕骨ト掌骨ノ間界ヲ露ハサス^ル、手掌^{ム、パ、ル、ハ、}
 凹入シテ、上方ノ分界ハ、腕關節ノ隆起ヲ以テシ、
 兩側ノ分界ハ、母指球^{ボ、ド、ル、オ、ス、ト、}、小指球^{ボ、オ、}
 フ、^{デ、リ、ト、ル、}トヲ以テス、腕關節ノ分界ハ、前方ニ
 於タル皮膚面ノ横溝ヲ以テス、掌骨ト指骨ノ関
節部ハ、后方ニ於テハ、節^{ク、ク、ル、}ヲ以テシ、前方ニ於
テハ、掌ノ全徑三分ノ一下方ニ在ル、横溝ヲ以テ
 ス、諸指骨ノ關節部モ、亦々節ト横溝トヲ以テス、

蓋シ諸指ハ、五箇ニシテ、即チ母指、示指、中指、環指、
 及ヒ小指ナリ、

上肢ノ皮膚ハ、外後方ニ於テハ、厚ク且ツ密ナリ、
 内前方ニ於テハ、薄ク且ツ擴張スヘシ、而シテ手掌
 ノ他ハ、悉ク其底面ノ諸部ヨリ遊離スヘシ、

上肢筋莖

上肢ノ表筋莖^{ソ、ル、ヒ、シ、}ハ、粗疎ナル結締織ノ
 層ニシテ、皮膚ヲシテ、深筋莖^{一、}、皮下ノ諸隆起ト、
 諸骨ノ隆起線トニ固着セシメ、其表部ハ、表静脈
 幹ト、皮下ノ神經ト、脂肪トヲ含有シ、而シテ此脂肪

ノ集積ハ、表静脈ヲ藏包シ、且ツ諸筋并列ニ由テ
生スル、稜角ナル間隙ヲ充填ス故ニ、幼兒、好育婦、
及ヒ肥満家ハ、其肢、一種ノ圓形ヲ呈セリ、其深部
ハ、多ク膜状ニシテ、脂肪層表部ト底面ノ諸部ト
ヲ分界ス、此筋莖、肩胛突起、及ヒ肱突起ノ部ニ在
テハ、脂肪ヲ含有セス、且ツ肱突起ノ部ニハ、不正
ナル關節膜囊ヲ含有ス
此筋莖ノ表脂肪層ハ、腕關節ニ近クニ於テ、減少
スレド、尚オ手掌ニ至テハ、敢テ喪亡セス、而ソ直
チニ皮膚ノ下面ニ附着セリ、

上肢ノ深筋莖并スシハ、胸筋、僧帽筋、潤背筋、及ヒ

大鋸筋ヲ被包セル、薄膜ノ延長シタル者ニシテ、
鎖骨、肩胛骨ノ頂、及ヒ其棘ニ固着シ、且ツ薄袍ヲ
以テ三角筋ヲ被包シ、而ソ上臂ヨリ下行ス、其一
部ハ、肩胛下筋、及ヒ圓筋ヲ被覆シ、其強剛ナル部
ハ、棘上筋、及ヒ棘下筋ヲ被覆シ、直チニ棘上窩、棘
下窩ノ両縁ニ固着ス、此膜、大胸筋ヨリ潤背筋ヲ
横行シテ、腋下ヲ圍繞シ、腋下、及ヒ上臂ノ脈、神經
ノ莖ニ結合ス、而ソ上臂ノ内部ニ在テハ、薄ク、後
部ニ在テハ、厚ク、肘關節ニ近クニ於テ、愈強剛ト

為リ、肱突起、髁及ヒ髁線ニ固着シ、且ツ髁線ニ固着スル部ハ、筋間ノ中隔ヲ造構ス。此筋莖ハ、大胸筋、潤背筋、及ヒ三頭臂筋、腱ノ着點ヨリ、前葉ヲ受ケ、以テ三頭臂筋ノ束ノ起點ト為レリ、
此筋莖、下臂ニ於テハ、腱膜状ヲ有シ、其色灰白ニシテ、光輝アル横行纖維ヨリ成リ、而シテ縦行纖維ニテ結合シ、且ツ二頭筋ノ腱ヨリ、著シキ前葉ヲ受ク。此莖葉ハ、内髁ヨリ起レル諸筋ニ彌蔓シ、以テ中貴要靜脈ヲ、上臂脈ト、中神經トヨリ、分界セリ。此筋莖、其裏面ヨリ、諸筋ノ間ニ達セル部ハ、筋

甲
リガメン
ニラル、アン
ス、アンテリウ

間ノ中隔ヲ成シ、諸筋束ノ起點ト為ルコト多シ、
此筋莖、腕關節ニ於テハ、強キ横行纖維ヲ副人テ、前後二個ノ環状韌帶ヲ成シ、諸屈筋、及ヒ諸伸筋ノ腱ヲシテ、手掌、及ヒ手背ニ達セシムルノ、通路ヲ主ルナリ、

前環状韌帶
ニシテ白色ナリ、腕骨ノ前面ト内側トヨリ生シテ、外側ニ達シ、其一端ハ、豆骨、及ヒ鈎状骨ニ固着シ、他端ハ、船樣骨、及ヒ富稜骨ニ固着ス、而シテ腕骨ノ四陷ヲ被覆シ、以テ一管ヲ成シ、諸屈腱及ヒ中

甲
リガメンチム、アン
ニラルホステリウ
ス

神經ノ手掌ニ達スルノ通路ヲ主ルナリ
後環状靱帶ニホスルテ、リガメンチム、アンハ前靱帶ニ比ス
レハ微弱且ツ薄廣ニシテ、白色ノ斜纖維ヨリ成
リ、橈骨ノ下端ノ外縁ヨリ生シ、尺骨ノ内縁及ヒ
豆骨ニ達ス其橈骨及ヒ尺骨ヲ横行スルニ於テ、
強ク其下端ノ平行線ニ固着シ、間溝ヲ被覆シ、以
テ一管ヲ成シ、諸伸腱ノ手背ニ達セル、通路ヲ主
ルナリ、
此筋莖、手背ニ於テハ、薄層ノ手背筋莖ト成リ、前
靱帶ヨリ、諸指ニ擴張シ、直チニ其底下ノ諸伸腱

解剖學
卷之六

甲
リガメンチム、アン
ニラルホステリウ
ス

ニ附着ス、掌筋莖ハ、薄袍ニシテ、前環状靱帶ヨリ、
母指球及ヒ小指球ニ擴張シ、其中部ハ、強キ三角
形ノ腱膜ニシテ、前方ニ放散セル、纖維ヨリ成リ、
横纖維ヲ以テ、互ニ結合ス、此三角形ノ尖頭ハ、前
環状靱帶ニ連合シ、半ハ、長掌筋腱ノ着點ヲ受ケ、
其基礎ハ、分岐シテ四個ニ延長シ、各、諸屈腱ノ上
ニ在テ、再ヒ分岐シテ、莖靱帶及ヒ掌指骨ノ關節
靱帶ニ固着ス、

甲
莖靱帶ガメンチム、アンハ、纖維莖ニシテ、諸指骨ノ前
ニ於テ、諸屈腱ヲ覆ヒ、強ク指骨ノ側縁ニ固着ス

解剖學
卷之六
十九

此韧带ハ横斜ノ二帯ヨリ成リ、指骨ノ前ニ於テハ、強剛ニシテ、關節部ニ於テハ、薄柔ナリ、乃チ其機關ニ適セリ、

肩胛諸筋

甲 ムスクルス、ソフラス、バ井ナカス、

棘上筋 ソフラス、ムスクル、バ井ノハ、肩胛骨ノ棘上窩、及ヒ

其被覆腱膜ヨリ起リ、其束式、輻輳シテ、腱ト為リ、

肩胛突起ノ底位ヲ過キ、肩胛關節ノ囊韧带ニ固

着シ、以テ上臂骨ノ大結節ノ上部ニ附着ス、

乙 ムスクルス、井ソフラス、バ井ナカス、

棘下筋 井ソフラス、ムスクル、バ井ノハ、肩胛骨ノ棘下窩ヨリ

起リ、亦タ輻輳シテ、腱ト為リ、肩胛關節ノ囊韧带

甲 ムスクルス、テレスミノル、

ヲ越エ、而シテ上臂骨ノ大結節ノ中央ニ附着ス、
小圓筋 ソフラス、ムスクル、バ井ノハ、肩胛骨後縁ノ上部ヨリ

起リ、前筋ニ抵觸シ、或ハ多少結合シ、而シテ上行シ

テ、上臂骨ノ大結節ノ下部ニ附着ス、

乙 ムスクルス、ソプスカビュラリス、

肩胛下筋 ソプスカビュラハ、其束、廣濶ニシテ、肩胛

下窩ヨリ起リ、強腱ト為リ、肩胛關節ノ前方ヲ過

キ、上臂骨ノ小結節ニ附着ス、此筋ハ、大鋸筋ノ上

方ニ居テ、薄筋莖、及ヒ腋下ノ結締織ニテ分界シ、

且ツ已レノ腱ト、肩胛骨ノ頸トノ間ニ於テ、關節

膜囊ヲ挿入ス、

此筋ノ作用ハ上臂ヲ内方ニ運轉シ、他ノ三筋即チ棘上棘下及ヒ小圓ノ作用ハ外方ニ運轉セシメ、而シテ四筋共ニ其腱着點ニ近クニ於テ、半ハ肩胛關節ヲ圍繞シテ、直チニ其囊韌帶ニ結合シ、以テ大ニ關節ヲ強剛ナラシム、

上臂諸筋

大圓筋 クレト、ムストクル、レハ、腋下ノ後層ヲ造成ス

ル者ニシテ、肩胛骨ノ下縁ノ下部、及ヒ其下角ヨリ起リ、潤背筋ノ底下ヲ上行シ、爰ニ於テ廣腱ト為リ、潤背筋ノ腱ニ接シテ、上臂骨ノ后二頭筋線

甲 ムスクルス、テレス、マヨル

甲 ムスクルス、テルト、井、デウス

ニ附着シ、以テ潤背筋ノ作用ヲ扶助ス、蓋シ此筋ハ三頭筋ノ長頭ニ由リテ、小圓筋ヨリ分界セリ

三角筋 ムデルト、ムストクル、井、ド、ハ、肩胛ノ凸状隆起ヲ造成ス

ル者ナリ、其半ハ腱状肉状ニシテ、鎖骨ノ外部、肩胛突起、及ヒ其棘ノ下端ヨリ起リテ、其式輻輳シ、半ハ亦タ腱状肉状ニシテ、上臂骨ノ外部ニ於ルル、殆ト中央ノ粗疎面ニ附着ス、此筋ハ粗疎ニシテ、且ツ腱纖維ヲ混ス、

此筋ハ上臂ヲ舉上シテ、地平ニ放置シ、且ツ之ヲ前方、或ハ後方ニ牽引シ、且ツ大ニ肩胛ノ關節ヲ

甲
ムスクルス、コルア
コ、アラチアリス、

乙
ムスクルス、ビセ、
ス、フレキシブル、モビ
チ、

シテ強健ナラシム、
鳥啄上臂筋^甲アコルムアスコ、アラチハ、上臂ノ上内方ニ
位シ、二頭屈筋ノ短頭ト共ニ、肩胛骨ノ鳥啄突起
ヨリ、腱状ニシテ起リ、下方ニ進ニテ、上臂骨ノ内
側ノ中央ニ附着ス。茲ニ外皮神経アリテ、穿孔シ、
上臂ノ外部ニ通セリ、
二頭屈筋^乙レビキソルス、ハ、上臂ノ前方ニ位シ、即チ
両頭ヲ以テ、肩胛ヨリ起リ、下臂ニ達ス。蓋シ其内
頭 短頭ハ、前筋ト共ニ、鳥啄突起ヨリシ、長頭ハ、狭
腱ヲ以テ、肩胛ノ關節窩ノ頂ヨリシテ、關節囊ニ

甲
ムスクルス、アラチアリ
ス、アンチモス、

テ衰マレ、以テ關節ノ上部ニ通シ、上臂骨ノ二頭
筋溝ヲ降ル。爰ニ於テ、両頭結合シ、厚キ肉腹ヲ造
成シテ、強健ト為リ、而シテ下臂ノ廻後筋ト、屈筋ト
ノ間ニ到リ、橈骨ノ結節ノ後部ニ附着ス。其腱ノ
着點ト、橈骨ノ結節トノ間ニ、關節膜囊ヲ挿入シ、
且ツ其腱ノ初端ハ、内髁ノ直下ニ於テ、腱膜状ノ
延長ヲ為シテ、之ヲ下臂ノ筋莖ニ與ヘリ、
上臂筋^甲ムスクルス、アルハ、上臂ノ下部、即チ前筋ノ底
下ニ位シ、肱關節ヲ被覆シ、三角筋ノ着點ノ兩側、
即チ上臂骨及ヒ其下部ノ骨面ヨリ起リ、輻輳シ

甲
ムスクルス トリセプ
ス エキステンソル
ビ大

テ腱ト為リ、尺骨ノ鳥喙突起ノ前部ニ附着ス。鳥
喙上臂筋ハ、上臂ヲ内方ニ牽引シ、二頭屈筋ハ、手
ノ前方ニ運轉シタルキニ於テ、橈骨ヲ外方ニ運
轉スルヲ以テ、手ヲ後方ニ運轉シ、且ツ其持久ス
ルキハ、下臂ヲ屈折ス、上臂筋モ、亦タ下臂ヲ屈折
シ、且ツ其位置ニ由リテ、大ニ肱關節ヲ強剛ナラ
シム、
三頭伸筋 トリセプス、エハ、上臂ノ後部ニ於テ、全
ク肉塊ヲ造成セリ、而シテ其起點ニ於テ、外頭ハ、上
臂骨ノ大結節ノ下方ヨリシ、短頭ハ、大圓筋ノ下

甲
ムスクルス アンコ
子ウス

方、即チ上臂骨ヨリシ、長頭ハ、肩胛關節ノ下方、即
チ肩胛ノ縁ヨリシ、遂ニ三頭結合シテ、一個ノ肉
腹ト為リテ、下行ス。其下行中ニ於テ、斷ヘス。上臂
骨ノ面ヨリ副束ヲ受ケ、強キ腱膜状帶ト為リ、尺
骨ノ肱突起ニ附着ス。此腱ノ着點ト、突起ノ頂ト
ノ間タ、關節膜囊ヲ挿入ス。蓋シ此筋ハ、下臂ノ伸
筋ナリ、

甲
肱筋 アンコ子ウスハ、 肱關節ノ下方、及ヒ上臂骨ノ
外髁ヨリ起リ、尺骨ノ上外部ノ三角面ニ附着ス、
此筋ノ作用ハ、三頭伸筋ニ類似ス、往昔之ヲ二頭

筋ノ第四頭ト為セリ、蓋シ三頭伸筋ノ連續ナル
ヘシ、

下臂前部諸筋

ムスクルス、フルム
リス、ロングス、

長掌筋 ル、ム、ス、グ、ス、ル、、ハ、橈腕屈筋ト、尺腕屈筋ト

ノ間ニ位シ、上臂骨ノ内髁、及ヒ筋間膜ヨリ起リ、
小ナル肉腹ヲ成シテ、長腱ト為リ、下行シテ、腕関

節ノ環状靱帯、及ヒ掌筋莖ニ附着ス、

乙
ムスクルス、プロ子
ト、ル、ラ、チ、テ、レ、ス

圓廻前筋 ロ、テ、レ、子、ト、ト、ル、フ、ハ、、下臂ノ上部ヲ斜行スル

者ニシテ、上臂骨ノ内髁ヨリ起リ、外下方ニ進ミ、
橈骨ノ外側ノ粗疎面ニ附着ス、

甲
ムスクルス、フロ子
ト、ル、ラ、チ、オ、ド、ラ
左ス、

四角廻前筋 ブ、オ、ド、レ、子、ト、ル、ト、、ハ、諸屈筋ノ底下ニ於

テ、下臂ノ下端ヲ横行スル者ニシテ、尺骨ノ下部
ノ前方ヨリ起リ、骨間膜ヲ越テ、橈骨ノ前方ニ附

着ス、此筋ノ表面ハ、薄キ腱膜ニテ被覆セリ、

以上兩筋ハ、尺骨ノ上位ニ於テ、橈骨ヲ内轉セシ

ム、故ニ手ヲ前轉シ、掌ヲ下方ニ向ケシム、

乙
ムクスルス、フレキソ
ル、カル、ヒ、ラ、チ、ア、リ、ス

橈腕屈筋 ル、ラ、チ、オ、カ、ル、ス、、ハ、下臂ノ前方ニ位シテ、

内髁、及ヒ筋間膜ヨリ起リ、斜ニ外方ニ進行シ、輻

轉シテ、扁平ナル長腱ト為リ、腕骨ノ外部ニ於テ
纖維管ヲ穿通シ、遂ニ第二掌骨ノ根蒂ニ附着ス

ムスクルス、フレキシブル、ユルナリス

乙
ムスクルス、プレキシブル、プリニクス、エルホラーチス、

尺腕屈筋 ル、エ、フレオキルル、ハ、下臂ノ内側ノ最表ニ
位シ、強キ腱膜ヲ以テ、内髁、及ヒ肱突起ヨリ起リ、
且ツ強キ腱膜ヲ以テ、尺骨ノ内縁ノ上部ヨリ起
リ、其腹、腱ト為リテ、豆骨、及ヒ終掌骨ノ根蒂ニ附
着ス。此筋ノ起點、即チ上臂骨ト、尺骨ノ間ニ於テ、
尺骨神經ヲ通放セリ、

表諸指屈筋 ツ、ソ、ル、オ、フ、ヒ、シ、ア、ケ、ル、ス、キ、ハ、前諸筋ノ
間々、即チ下臂ノ前方ニ位シ、内髁、内側靱帶、尺骨
ノ鳥啄突起、及ヒ橈骨ノ結節ノ下部ヨリ起リ、下
臂全徑ノ下方三分ノ一ニ於テ、分裂シテ四個ノ

甲
ムスクルス、フレキシブル、キトリム、ム、ボ、ホ
ン、チ、ス、

腱ト為リ、共ニ腕關節ノ環状靱帶ノ底下ヲ過キ、
爰ニ於テ、離散シテ、各、諸指骨ノ根蒂ニ附着シ、而
ノ第一指骨ノ前方ニ於テ、再ヒ分裂シ、以テ深屈
筋、腱ノ通路ヲ成ス、
此筋、其起點、即チ尺骨ト、橈骨トノ間ニ於テ、中神
經ヲ放通セリ、

深諸指屈筋 オ、フ、ヒ、シ、ア、ケ、ル、ス、キ、ハ、前筋ノ底下ニ
位シテ、尺骨ノ前面ノ上部、及ヒ骨間膜ノ近傍部
ヨリ起リ、亦タ分裂シテ、四個ノ腱ト為リ、各、腕關
節ノ環状靱帶ノ底下ヲ過キ、遂ニ前筋ノ腱ヲ穿

甲
ムスクルス、ロムブ
リスカルス、

通シテ、終指骨ノ根蒂ニ附着ス、蓋シ前筋ニ比ス
レハ強剛ナリトス、
蟲状筋 ムスクルス、ロムブリスカルス、ハ、其束、即チ蟲状ニシテ、其
数四個アリ、各、手掌ニ位シ、前筋ノ腱ノ外側ヨリ

起リ、進歩ニテ諸指骨ノ背ニ於テ、擴張セシ腱ノ
外側ニ附着ス、
長拇指屈筋 ムスクルス、フレキソル
ソル、ロングス、ホル
リキス、ハ、オング、デ、ソ、ム、キ、ソ、ハ、深諸指屈筋ノ外

側ニ位シ、橈骨ノ前面、及ヒ骨間膜ノ近傍部ヨリ
起リ、其腹、腱ト為リテ、腕關節ノ環状韌帯ノ底下

ヲ過キ、外方ニ廻轉シテ、兩短拇屈筋ノ兩部ノ間

乙
ムスクルス、フレキ
ソル、ロングス、ホル
リキス、

ニ進ミ、拇指ノ終指骨ノ根蒂ニ附着ス、

諸屈筋ノ腱、其諸指ニ沿進スルニ於テ、莢韌帯ニ

由テ、其位置ヲ保續シ、而シテ此韌帯ノ底ニ、狹隘ナ

ル諸副帯アリテ、又タ腱ヲシテ、指骨ノ前面ニ固

着セシム、此副帯ハ、滋養管ヲ透導シ、腱ニ達セシ

ムルヲ主トル者タルヘシ、又タ關節膜囊アリ、莢

韌帯ノ内面ト、指骨ノ前面トヲ覆ヒテ、諸屈筋、及

ヒ諸副帯上ニ反轉セリ、

下臂後部諸筋

普通諸指伸筋 ムスクルス、エクステン
ソル、デキトル、ム、コン
ミユニス、ハ、オ、フ、モ、ン、ヒ、エ、ン、キ、デ、ス、ル、テ、ソ、ハ、外髁近

傍ノ筋間膜、及ヒ下臂ノ筋莖ヨリ起リ、下臂中央ノ下方ニ於テ、其腹分裂シテ、四個ノ腱ト為リ、共ニ後環状靱帯ノ底下ヲ過キ、乃チ離散シテ、諸指ノ背ニ擴張ス。第一指骨ヲ通過スルニ於テ、其兩側ニ在ル、蟲状筋、及ヒ骨間筋ヨリ纖維ヲ倍加シ、而シテ其中部ハ、第二指骨ノ根蒂ニ附着シ、兩側ハ、前方ニ進ミテ、輻輳シテ共ニ終指骨ノ根蒂ニ附着ス。手背ニ於テ、内方ニ在ル、三個ノ腱ハ、短キ間帯ヲ以テ、互ニ結合ス。此間帯ハ、三腱ノ作用ヲ扶助スルカ故ニ、自余ノ腱ニ比スレハ、最モ強剛ナリ、

甲
ムスクルス、ソヒナ
トル、ロングス、

乙
ムスクルス、エキステ
ンソル、カルビ、ラチア
リス、ロシオル、

長廻後筋 ナロントグ、ヒハ 下臂ノ外側ニ位シテ、三角ノ着點ノ下方、即チ外髁線ヨリ起リ、輻輳シテ、扁平ナル長腱ト為リ、橈骨ノ錐頭突起ノ根蒂ニ附着ス。故ニ其全徑殆ト上臂ノ中央ヨリ、腕關節ニ達セリ、

長橈腕伸筋 ルロソゲル、フレキソカハ 其半、前筋ニ覆ハレ、且ツ前筋ノ下方、即チ同ク外髁線ヨリ起リ、其腹輻輳シテ、扁平ナル腱ト為リ、橈骨ニ沿テ下行シ、乃チ第二掌骨ノ根蒂ニ附着ス、

甲
ムスクルス、エキステ
ンソルカハヒ、ラヂア
リス、ブレヒオル、

短撓腕伸筋シヨル、エトル、ラチオカ
ル、ハ、其半、前筋ニ
覆ハレ、上臂骨ノ外髁ヨリ起リ、扁平ナル腱ヲ以
テ、第三掌骨ノ根蒂ニ附着ス、

乙
ムスクルス、エキステ
ンソル、カルヒ、エルナ
リス

尺腕伸筋エキレオカ
ル、ハ、下臂ノ内側ニ位シ、
外髁、尺骨内縁ノ上部、及ヒ下臂ノ筋莖ヨリ起リ、
其腹輻輳シテ、長キ扁平ナル腱ト為リ、下行シテ
終掌骨ノ根蒂ニ附着ス、

丙
ムスクルス、エキステ
ンソル、ミニ、ミ、チ
ギチ

小指伸筋エキス
テ、ハ、ソル、ハ、オス、ハ、普通伸筋ノ内
則ニ位シ、乃チ之ト共ニ起リテ、其腱環状韌帶ノ
一管ヲ通過シ、而後ナ普通伸筋ノ第四腱ニ結合

甲
ムスクルス、ソヒナ
ト、ラヂ、ブレビス

短廻後筋ナソル、ト、ソ
ヒ、ハ、長廻後筋ト、撓腕伸筋ト
ニ覆ハレ、上臂骨ノ外髁、肱關節ノ外側韌帶、及ヒ
尺骨ヨリ起リ、斜メニ撓骨ヲ外下方ニ廻轉シテ、
其上方三分ノ一ニ附着ス、

乙
ムスクルス、オシメタ
カルビ、ボルリシス、

拇指掌骨伸筋テメ
ンタソル、オス、エ
キ、ソ、ム、ハ、前筋ノ下
方ニ位シテ、尺骨、骨間膜、及ヒ撓骨ヨリ起リ、其腹
腱ト為リ、斜メニ撓腕伸筋ノ腱ヲ横行シ、撓骨ノ
錐頭突起ノ前ニ於テ、一溝ヲ通シ、而后、拇指ノ掌
骨ノ根蒂ニ附着ス、

甲
ムスクルス、プリミ、井
ンテルノヂ、ホルリシ
ス

乙
ムスクルス、エキステ
ンノル、セコンヂ、井
ンテルノヂ、ホルリシス

丙
ムスクルス、エキステ
ンノル、井、ンデキス

拇指第一指骨伸筋 キスルスト、スル、オス、チ、アル、エ
ハ、前筋ノ下方、即チ其内側ニ位セル、小筋ニシテ、
之ト起點ヲ同シ、其腹、狭腱ト為リテ、前筋ノ腱ニ
伴行シ、以テ拇指ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、
拇指第二指骨伸筋 キセコ、ンデ、スル、オス、チ、アル、エ
ハ、前筋ノ下方、即チ尺骨、及ヒ骨間膜ヨリ起リ、其
腹、腱ト為リ、前筋、及ヒ拇指掌骨伸筋ニテ、充填セ
ル環状靱帶管ノ別管ヲ通過シ、進行シテ拇指ノ
終指骨ノ根蒂ニ附着ス、

示指伸筋 エキステ、ンソル、オス、チ、アル、エ
井、ンデキス、ヒ、ンダ、ル、ハ、前筋ノ内側

甲
ムスクルス、フルマ
ス、ブレビス

乙
ムスクルス、アブ、チ
クトル、ホルリシス

ニ位シテ、之ト起點ヲ同シ、其着點ノ腱ハ、橈骨ノ
溝ヲ過キ、普通伸筋ノ示指ニ達セル、腱ニ結合ス、

手諸筋

短掌筋 ヨルト、スル、マ
ハ、肉纖維ノ薄層ニシテ、手

掌ノ内側ノ皮下ニ位シ、環状靱帶、及ヒ掌筋莖ヨ
リ起リテ、内方ニ進ミ、乃チ皮膚ニ附着ス、

拇指球諸筋

外送筋 アブ、チ、クトル
ハ、拇指球諸筋ノ最表層ニシテ、乃

チ外方ニ位シ、腕關節ノ環状靱帶ヨリ起リ、拇指
ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、

甲
ムスクルス、フレキシ
ブル、オシメタカルビ、ポ
ルリス、

乙
ムスクルス、フレキシ
ブル、プレヒス、ポルリス、

丙
ムスクルス、アトキ
クトル、ポルリス、

甲
ムスクルス、アトキ
トル、ミニ、ギキ、

乙
ムスクルス、フレキシ
ブル、プレヒス、

丙
ムスクルス、アドキ
トル、ミニ、ギキ、

丁
ムスクルス、インテ
ルオスセ、

解部言蒙

卷之六

掌骨屈筋 メタカルス、ル、 前筋ノ底下ニ位シテ、

起點ヲ同シ、拇指ノ掌骨ノ全徑ニ附着ス、

短屈筋 レキルト、ル、 両部ヨリ成リ、其中間ニ長拇

指屈筋ノ腱アリ、而シテ環状靱帯、及ヒ第二列腕骨

ヨリ起リ、腱ト為リテ、拇指ノ第一指骨ノ根蒂ニ

附着ス、其着點ノ腱中ニ於テ、セサム骨ノ留宿ス

ルアリ、

丙
内送筋 クアドル、ル、 三角形ニシテ、掌骨ノ全徑ヨリ

起リ、輻輳シテ、拇指ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、

小指諸筋

甲
外送筋 クアドル、ル、 掌縁ニ位シ、豆骨ヨリ起リテ、小

指ノ第一指骨ノ根蒂、及ヒ小指ノ伸腱ニ附着ス、

短屈筋 レキルト、ル、 腕關節ノ環状靱帯、及ヒ鉤状

骨ヨリ起リテ、小指ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、

此筋、屢前筋ト着合シテ、其分界不明ナルイアリ

丙
内送筋 クアドル、ル、 前筋ト起點ヲ同シテ、小指ノ掌

骨ノ全徑ニ附着ス、

骨間筋

骨間筋 井、ス、 テル、ス、ウ、ハ、其數七個ニシテ、即チ

掌骨ノ中間ニ位シ、而シテ其四個ハ手背、三個ハ手

澤川

卷之六

三十

甲
ムスクルス、井ンテル
オスセ井、井ンテルニ

掌ニ在テ、甲ヲ背骨間筋、乙ヲ掌骨間筋ト云フ、
 背骨間筋 シドルサル、井ンテルス、ムスクルス、ハ、掌骨ノ相ヒ隣
 接セル側方ヨリ起リ、四個共ニ、其腹翅状ヲ成シ、
 腱ト為リテ、其半ハ、指背ニ於テ、伸腱ニ結合シ、半
 ハ、第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、
 此四個ノ列序ニ於テ、第一ノ者ハ、示指ノ外側ニ
 附着シテ、乃チ外送ノ作用ヲ為シ、第二及ヒ三ノ
 者ハ、中指ノ両側ニ附着シテ、乃チ内外両送ノ作
 用ヲ為シ、第四ノ者ハ、環指ノ内側ニ附着シテ、乃
 チ内送ノ作用ヲ為ス、

甲
ムスクルス、井ンテル
オスセ井、井ンテルニ

掌骨間筋 シドルサル、井ンテルス、ムスクルス、オス ハ、三個、各、示指、
 環指、及ヒ小指ノ掌骨ノ片側ヨリ起リ、其第一ノ
 者ハ、内側ニ在テ、乃チ内送ノ作用ヲ為シ、第二三
 ノ者ハ、外側ニ在テ、乃チ外送ノ作用ヲ為シ、而ノ
 其終ハ、背骨間筋ニ類似セリ、

